

# 泉貨紙の利用価値を探る

1年1組 今野 翔太 1年1組 黒澤虎之進

1年1組 河野 泰成 1年3組 江尻 丈宗

指導者 井上 真介・山下 佳世・西川いず美・小山 尊浩

## 1 課題設定の理由

近年、地方都市や農村などで衰退していった伝統産業をもう一度見つめ直そうとする取り組みが見られる。そこで、私たちが住む地域でも、伝統的な特産品を利用することで、その良さを日本全国に発信できるのではないかと思い立った。調べてみると、愛媛県南部から高知県西部にかけて、特殊な方法で作られていた泉貨紙という紙の存在に行き当たり、興味を持った。

泉貨紙は江戸時代末期が全盛期だったが、しだいに生産量は減少し、現在ではその需要がなくなっている。そこで、この紙を新たな用途で多くの人に興味を持ってもらえるように、良さを再発見し、それを広めていきたいと考え、この課題を設定した。

## 2 仮説

かつて、丈夫で固い紙として、多くの人に防寒着や傘として使用されていたことから、泉貨紙の利点や用途を現代の生活環境に合わせた形にすれば、もう一度需要が高まるのではないかと推測した。

## 3 研究の方法

(1) 製造場所への訪問調査

(2) 耐水性と強度の実験

ア 画用紙と泉貨紙を縦3cm、横1cmに切る。

イ それぞれを5秒間、水に浸す。

ウ 紙にペットボトルを吊るし、ビー玉を入れていき紙が切れた時のペットボトルの重さを計測する。

エ ア～ウをそれぞれ6回ずつ繰り返す。

(3) 顕微鏡での観察

泉貨紙・泉貨紙（柿渋）・画用紙・半紙を観察する。

(4) 今後の利用と普及の可能性の考察



写真1 泉貨紙

## 4 結果と考察

(1) 訪問

現在泉貨紙は、鬼北町において、保存会の方が時期を限定して製造しているのみである。私たちが、訪問をした時は製造をしていなかったが、製造方法を継承している方からお話をうかがうことができた。お話から、泉貨紙は特殊な道具（写真2）を用いた漉き方により、繊維の構造が他の紙と違っているため強度が高く、柿渋につけているため、耐水性にも非常に優れていることがわかった。

(2) 耐水性と強度の実験

実験結果（表1）から、泉貨紙は画用紙と比べると、約6.6倍の強度があると言える。



写真2 泉貨紙の製造道具

表 1 泉貨紙と画用紙の強度比較実験（単位はすべて g）

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	平均
泉貨紙	1650	1712	1610	1586	1551	1614	1614
画用紙	230	211	253	257	270	253	246

### (3) 顕微鏡での観察

- ア 画用紙や半紙は繊維がばらばらに並んでいるが、泉貨紙は複雑に繊維が並んでいた。
- イ 泉貨紙の繊維は粗いため、それぞれが絡まり合っていた。
- ウ 柿渋をつけた泉貨紙は繊維の間に柿渋が入り込んでいた。

### (4) 泉貨紙の今後の利用と普及の可能性

柿渋泉貨紙の特徴について、実験や観察から以下のことが分かった。

- ・耐久性・耐水性が高い
- ・軽く、硬いため持ち運びが楽である
- ・材料の多くが自然の素材である

これらの点から、泉貨紙の用途として、旅館など和風建築物の障子や飲食店でのランチョンマットなどに適していると私たちは考えた。これらを普及させていくためには、泉貨紙の利用価値を最大限に生かす活用法を考えなければならない。

## 5 まとめ・今後の課題

泉貨紙は、2枚の漉いた紙を重ね、重しを乗せて置いておくことで、1枚の紙にする製法で作られており、その後柿渋をしみこませることで耐久性と耐水性に優れた紙となる。実験の結果は耐久性が画用紙の約6.6倍もの強さを誇ることを示している。強度で言えば、これは段ボールに匹敵するであろう。耐久性・耐水性に優れる、薄い、軽量であるという利点を併せ持つ泉貨紙は最も利用価値の高い紙と言ってよいかもしれない。

利便性に優れた泉貨紙を今後普及させていくためには、後継者の維持だけでなく、認知度の向上が欠かせない。まずは、地元の旅館や飲食店などのサービス業で積極的に活用していくこと、さらには行政機関にも協力を求めていくことが第一歩だと考える。そうすることで、泉貨紙特有の趣が周知され、需要が高まっていくのではないだろうか。貴重なこの伝統産業を存続させていくために、具体的な利用方法とそのメリットを身近なところから広めていくことが、私たちにできることかもしれない。

## 参考文献

- ・『庄屋文書目録綴』仙貨紙の製造工程
- ・『江戸東京紙漉史考』（関 義城著 富山書房 1943年）